



共同通信



2007年12月18日 136号(346号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 36

『山あり谷あり10年間』

「共同通信をお願いします。」と言われて数週間。

どんなに考えても、何を書くべきかさっぱり筆が進まない。「日常のことでいいですよ。」とか、「10年前の自分と今の自分について書いてみたら？」とか、いろんなヒントを頂いているけれど、まだ書けない。

わたしは無趣味な人間だから？とか、子どもと毎日をしっかりすごしていないから？とか思ってみたけれど、きつとこの10年間幸せだったんだろうな、と気がついた。

小1と小4の息子がいる。小さいときからいろんなことがあったけれど、今日も元気いっぱい学校へ行っている。

毎日、怒らない日はない「良いお母さん」とは言えないわたしだけれど、そんなわたしに気を遣ってくれて、今日も「母ちゃんはがんばってるからなあ。」と言いながらお手伝いをしてくれる・・・こともある。たいてい最後は兄弟げんかになって「それは、お手伝いなの！」って怒られるけれど。

夫も今日も元気に会社へ行った。絶対に！！「良い妻」ではないわたしだけれど、とりあえず結婚10年だ。数年前に、会社を辞めて帰ってきたときは大騒ぎになってわたしが働きに出たりしたけれど、楽しそうに会社に出かける姿を見て、「まあ、それなりによかったかな？」と思う。おかげで、わたしの仕事が倍増

中だけれど。でも、最近は、思いっきり嫌味を言っても怒らなくなってきた。しめしめ。

で、わたし。今日も元気いっぱいにごしている。料理が得意でもないし、手芸とか、お菓子作りが得意とか、運動がすごくできる、とかいうこともなく苦手なことがいっぱいのわたしだけれど、まあ、それもいいか、と思っている。どうも、どこかで「スーパー母ちゃん」と思われているみたいだが、それは「スーパーにいる母ちゃん」の間違いだと思う。「できない。」って言うとなにもできない気がして、「とりあえずやってみる」ので、今日もどこかでだれかに迷惑をかけている姿がいろいろやっているように見えるらしい。

でも、こんなわたしがいるのは、この公同教会や公同幼稚園でいろんな人に巡り会えたからだろうな、と思う。

子どもが小さくて、子育てに煮詰まっていた時。夫が会社を辞めてきて大騒ぎだった時。今は元気なわたしだけれど、数年前までパニック障害で、電車に乗ることができなかった時。最近、壁にぶち当たって落ち込んでいた時。いつも、誰かがいて、その時々相談に乗ってくれる人たちがいるのはとても幸せだな、と思う。

わたしがよく子どもと一緒に公同教会に出入りしているとしたら、それは、わたしにも、子どもたちにも、夫にも、いろんな人がいて、いろんな考え方があって、いろんな相談をする場所があるということを見つけるためかもしれない。

でも、本当はみんなで大騒ぎをするのが好きなだけかもしれないけれど。

そんな幸せを心の奥で思いながら、今日も元気に、にぎやかに、怒ったり笑ったりしながら1日が始まるのだ。

(古谷 温子)

日本基督教団西宮公同教会 会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

それか四頭の牡牛に車をそれか四頭の牡牛に車をゆるゆるとひかせ げわい坂
道をおぼろの頂に達すると、そこには薪が天に向け積み上げられていた。み
なペーオウルのながを 積まれた枝の上に横たえ、松明をさかした。ほろのあ
いた ほろか遠かき 鯨の甲 には燃え真 赤な炎が見え、万人はペーオウワ
が一族のそばにおいたことを知った

(ペーオウワ、ロズマリ、サトル)

“その出来事”が起こってしまった後
でだったら、何とでも言ってしまうの
はもちろんのことです。以下、ルカによ
る福音書 21 章 5 ~ 28 節も、“戦争と
騒乱”など、その出来事が起こってし
まった後の、そのことへの理解や生き方が
語られています。“戦争と騒乱”が起こっ
たのは、紀元 68 ~ 73 年のユダヤ戦争
で、それは本当に起こったことです。戦
争の結果「見事な石と奉納物」で飾られ
ていた“宮”は、「その石一つでもくず
されずに、他の石の上に残ることもなく
なる」までに、破壊されてしまいました
(21 章 5、6 節)。その出来事とその後
を生きる人たちに向かって「おじ恐れる
な、こうしたことはまず起こらねばなら
ないが、終わりはすぐにはこない」と語
りかけられます(9 節)。紀元 73 年の
マサダの陥落(全滅)でユダヤ戦争は終
結しますが、多くの人へは生きのびて戦争
の後も生きることになりました。そし
て、“終わりはすぐにはこない”と書か
れている、その時まで、ユダヤ戦争の後
も人は生き続けることになるし、ここ
ではイエスの処刑の後の 50 ~ 60 年くら

いの際の出来事も振り返ってあれこれ回
想しているように読めます。「民は民に、
国は国に敵対」する戦争は他にもあつた
し、「大地震があり」その結果の疫病や
ききんも起こっていたし、そんなことが
繰り返されると同時に、更に「・・・い
ろいろ恐ろしいことや天からの物すごい
前兆」に、人々はおびえるように生きて
いました(10、11 節)。「これらのあ
らゆる出来事の前に、人々はあなたがた
に手をかけて迫害し・・・」はいつの、
どんな出来事に関係するかは不明です
が、人々はあなたがたに手をかけて迫害
し、「会堂や獄に引き渡し、わたしの名
のゆえに王や総督の前に引っぱって行
く」などのことも、たぶん実際に起こっ
ていたことの記憶に基づいて書かれてい
ます(12、13 節)。それだけではなく、
「両親、兄弟、親族、友人にさえ裏
切られ」かつ「殺されるものもあろう」
などのことも起こっていました(16
節)。そんな状況の、そんな事態を生
きることになった人たちに、それが「あ
かしをする機会」であること、更に「あ
なたがたは耐え忍ぶことによって、自分の

魂を勝ち取る」ことになると励まします。ひどい戦争が、全くの敗北に終わったり、大きな自然災害の後の疫病やききんになってしまった時の困難は、どうであれそれを引き受けて生きるよりありません。そして、そのことを“あかしをする機会”“耐え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取る”などとなって初めて、耐えて生きることの意味が見つかったのかもしれない。そうして意味づけることが、全く力にならない訳ではありません。全く逆で、50～60年前のイエスの処刑の出来事、そしてその後起こり続けた出来事を、“物語”として耳を傾ける時、人々はいくばくかの自分を生きる望みをそこから受け取っていたに違いありません。人を生き延びさせる力は、具体的な手掛かりがそこになくはならないのはもちろんです。しかし不可避免的にやってくる不幸や死などの場合、そんな手がかりはあり得ないのですから、不幸や死のすべてを引き受けて生きのびるよりありません。そんな時に、今生きているその事が“あかし”であり、“恩を勝ち取る”などのことが、まったくその状況の説明にならなくはない、という意味で物語は必要なのかもしれないのです。

「エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たならば・・・」以下のことは、そのまま起こってしまったことです。そこを追われ、居場所を奪われてしまった人たちは、その事実を引き受けて生き

るよりありませんでした。そんな時にも、“物語”が人々に今を生きる希望になります。「聖書にしるされた全ての事が実現する刑罰の日である」「この民には(神の)み怒りが臨み」などと(22、23節)。少しばかり強引であっても、そこに意味が見つけれられるなら、その事態を引き受けて人は生きられなくはないのです。その意味を、イエスの“物語”に託されているのは、生きる意味をその物語をくみ出すことなのです。

(菅澤 邦明)

アコーク回一通信(116)

さすがの沖縄も12月の声を聞くと少々寒く感じるのです。15度切ると寒いなんていうとふざけるなと思いでしょうが、1年間の流れでいうと寒く、沖縄でも暖房器具が必要になる人もいるのです。よくある沖縄への質問のなかに「沖縄に雪は降るか」というのがあります。ものの本によると1977年久米島でみぞれが降ったと記されています。また1999年沖縄YMC A幼稚園がパレット久茂地前でクリスマスソングを歌っていたとき降ったといわれていますがこれは気象台未公認です。かの葛飾北斎は琉球八景という浮世絵を作製していて、『龍洞松濤』という今の空港近くの風景があるのですが雪景色を描いています。もちろん北斎は沖縄には来ていませんので雪を降らせたのは彼の想像です。まあ、異常気象で今後はどうなるかわかりません。とにかく、沖縄は雪のないクリスマスを迎えるわけです。

さて、近頃、沖縄を案内するのに「シーサー巡り」を入れています。沖縄に来られた方は気がつくでしょうが、沖縄にはいたるところにシーサーがいます。本土で言えば狛犬のような感じですが、本来は「獅子」ですからライオンです。古代中国で、王の象徴のひとつであった獅子は、門や階段に置かれ「魔」の進入を防いでいました。沖縄では今でも家の門や屋根などに飾ら

れていますが、飾りではなく魔除けです。それで注意してみると集落にいくつかのシーサーがあるのです。ムラを守るには違いないのですが、特に火事を防ぐ火伏せの役割をもったものなどがあります。沖縄は、沖縄戦で古いものがことごとく灰燼に帰しているのですが、石の彫刻であるシーサーは結構残っているのです。今まで結構沖縄中を歩いていましたが、そしてそのような石獅子を目にしていたのに、あらためてその向きや大きさ形状などに関心がわいてきました。もちろん、誰が作ったのかいつの時代のものかは正確にはわかりません。ムラ単位の歴史や民俗資料にかすかに記録されている程度です。それでもその戦禍や風雨に耐えてきたシーサーは素朴で茫洋とした顔を私達に文字通り安らぎを与えてくれます。

防衛省の守屋前事務次官が逮捕され、報道ではゴルフや飲食などの収賄罪ですが、沖縄の視点でいえば米軍基地の維持や新基地建設に伴う利権、それに巢食う政治家たちの姿が目には浮かびます。基地のある市町村では有形無形の防衛資金がばら撒かれているのです。ある町の「民俗資料館」など建設費そのものが「防衛施設補助金」によっています。例えば、嘉手納基地が見渡せる「道の駅」の建設費は10億円でしたが90%、9億円は国庫補助、5

1億円だけが自己資金です。その金が動くに当たって「利権」がなかったとはとても思えません。そこまで明らかにされて大疑獄事件になれば沖縄自体も吹っ飛んでしまうでしょうが、そうなるかどうか。

2007年もあっという間に終わりそうです。今年参議院選挙があったことなど遠い過去のような時間の進み方です。私も、前半の前半は論文書きで多忙を極め、中盤、「沖縄戦と韓国人」を追いましたが、それ以降息切れ気味です。何人かの訃報やスキャンダ

ラスな出来事に悲しみや怒りを感じています。怒りは、その出来事ではなく伝わらないことのもどかしさや何もできないことへの、つまり自分自身への怒りなのですが。

というわけで、2008年は気合いを入れなおして懸案を片付けていきたいと思います。先日、運転免許の更新があり、次回は5年後、「還暦」の歳に書き換えとなり、この5年間、何ができるか、何をするか、心して2008年を迎えたいと思うのです。

(沖縄・与那原 愛の園 後藤 聡)

「盛りだくさんだった11月でした！」

10日、第2土曜日は子どもも大人もみんなが楽しみにしていた公同まつりが行なわれました。運動会に引き続き、お天気に恵まれたことに感謝します。大きなカバンを手に、お財布をぶら下げて、お買い物を楽しむ子どもたち！多くの子が一斉にお店に向かう中、まずは腹ごしらえ！！で一番に綿菓子屋さんに向かい、ゆっくり味わっているお友だちもいました。どのお店も大行列！でも「いっぱい並んでるからやめておこう・・・」ではなくて、びっくりするくらいの長蛇の列でも並んで順番待ち～！お目当ての物をじっと見つめている子もいれば、買った物をお友達と見せ合いっこしている子もいて、待っている間も楽しい！のが公同まつりなんですね 大人も子どもも本

当にたくさんの笑顔に出会うことができました。たくさんの準備を下さったり、色々なところで動いて下さった方々、多くの方々のお支えによってみんなが待ち望んでこの日を無事に迎え、とてもステキな1日を過ごすことができたことを心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

いろんなところで紅葉まっさい中！なのですが、もちろん園庭もです！夏に、とっても気持ちいい日陰を作ってくれていたケヤキはたくさんの葉っぱを落としています。毎朝、教師で掃除をしています。まだまだ！たくさんの葉が～！冬はこの葉っぱがなくなると、ケヤキの木の下はお日さまの光がよく当たって、ポカポカ暖かい場所になるんです。季節ごとにステキな場所

に変化するこのケヤキの木の下がお気に入りです？

各学年、神戸女学院や北山緑化植物園、また年長組みは六甲の山へ行き、美しく色付いた木々を見ました。きれいな赤に染まった葉を拾って「おかあさんのおみやげにする！」というお友達もいたり、帽子のゴムに差し込んで、インディアンのようになっていたり、遊び方は様々です。秋を体いっぱい感じて楽しんだ子どもたちです。今まで秋の紅葉シーズンになると、とても美しいけれどどこか寂しい感じがしていました。でも公同に入って子どもたちと見る紅葉は感動も大きく、楽しくて！大好きになりました。

さて、この秋存分に味わったさつまいもが終わり、先日来年の春に向けていちごの苗を植えました。苗についている土を落とさないように両手でお皿を作って大切に苗を持っているみんなの姿がなんとも言えず可愛かったです？そして、小さな小さな玉ねぎの苗を植えました。玉ねぎの赤ちゃんてこんなに小さいんだー！と驚いてしまいました。いちごに玉ねぎ、どんな成長ぶりを見せてくれるのでしょうか～？！子どもたちと一緒に見守っていきたいと思います。

そして！そして～！25日(日)にな、なんと！！nao-shinが公同にやってきましたー！！2人のとってもすてきな歌声でたくさんの曲を楽しませて頂きました。そしてみんなが大好きな

「生義」をnao-shinと一緒に歌いました。大好きな歌をご本人たちと一緒に歌えるなんて～？大感激です！前よりももっと好きになりました。きっとみんなもそうだよね～コンサートの後も一緒にピンゴ大会をしたり、楽しいひとときでした。このコンサートのためにnao-shinグッズを準備したり、当日会場を盛り上げて下さったnao-shinファンクラブの方々に感謝の気持ちでいっぱいです！nao-shinまたきてねー！また一緒に歌える日がきますように

運動会、おまつりに始まり、盛りだくさんだった11月！あ！っという間でした。気付けば、2学期も残りわずかです。12月はクリスマスが待っています。リース型アドベントカレンダーも作り、クリスマスまでの日々を目一杯楽しみたいです！

これからますます寒くなりますが、どうぞお体にお気を付け下さいませ
・・・

(延原 光)

今月のあ・そ・び “ クリスマス人形のねがい ” ” サンタの昇り人形 ”

「クリスマス人形のねがい」(ルーマ・ゴッテン、バーバラ・クーニー、岩波書店)。クリスマス人形“ホリー”(ひいらぎ)のねがいのことが「・・・お人形というのは、わたしたち(人間)とはちがっています。わたしたちは生まれるとすぐ、人間として暮らしはじめますが、お人形の場合は、だれかが遊んでくれないうちは、かならずしも本当にお人形になったとはいえないのです。『だれかにあそんでもらいたい。脚やうでもうごかしたり、目を開けたり閉じたりしてもらいたい。おねがい!おねがい!』ホリーはいいました」(クリスマス人形のねがい)。“だれかがあそんでくれる”とき、お人形が本当のお人形となるのは、人間の場合も同じです。誰かがそばにいてはじめて、人間は本当の人間になります。クリスマスの何よりの願い、そして希望は、誰かを選ぶのではない人が、あなたの傍らに在ることの発見や喜びであり、あなたが誰かの傍らに在ることの発見や喜びです。

“NISHIKITAドイツのクリスマス”にいろいろ参加してください。12月1日の“点灯式”でにじきたのクリスマスが始まりました。その後もいろいろにじきたのクリスマスは続いています。12月16日からは兵庫県立芸術文化センターデッキ下で“クリスマスの木

のおもちゃ”の展示が始まります(12月24日まで)。小黑三郎さんの組み木のUプランや、有馬玩具博物館などが展示に協力します。小黑三郎さんの組み木で遊んでいる“ききるんの会”は、小黑三郎さんの“サンタの昇り人形”を、クリスマスツリーにして展示に協力しています。サンタの昇り人形が、ツリーになって8組並んでいる様子が、なかなか迫力のあるツリーです。

“NISHIKITAドイツのクリスマス”は、芸術文化センター前、高松公園で12月22日がいろいろな催しのクリスマスになります。その日には、芸文センターデッキ下に、“サンタの登り人形が『いっぱい並んで、昇ったり降りたりすることになっています。”

(菅澤 邦明)

大切な贈り物・津門川 64

『にしきた街づくり協議会に参加して』

昭和8年から70年以上も、私は昭和園(今の北昭和町)に住んでいる。子どもの頃の津門川は、兩岸一面に草が生い茂り田園地帯を流れる小川だった。そして夏には蛍が飛び交い、鮎やどじょうが面白いように捕れた。しかし堤防が低く、梅雨時などの長雨でしばしば浸水し、道路は水浸しとなり、近隣の家は地上げして建築していた。大阪の小学校に通学していた私は北口駅出口で長靴を運動靴に履き替えて電車に乗ったものである。これは、みたらし川(東川)の排水不良が原因だった。しかし、戦後昭和25年から治水工事が進み現在の津門川がほぼ出来上がった。昭和30年代には西宮北口駅の北西地区は、駅前は商業地として、津門川の兩岸は住宅地として活気づき急速に発展してきた。

そして、阪神大震災で多くの建物が倒壊し、北東地区はアクタを中心に生まれ変わり、南西地区は芸術文化センターやプレラが立ち並び、南東地区には阪急ガーデンズが建築されつつある。昭和の町並みが残る北西地区では、平成19年6月「にしきた街づくり協議会」が、市役所北口開発事務所、津門川兩岸の4自治会・2団体の会長を中心に発足し、駅前公園整備、津門川修景整備、防犯交通対策の3部会に分かれて、設計コンサルタントや栗山市議員も参加して、新し

い街づくりを目指して協議を重ねている。そして、たまたま、私が第2部会(津門川修景整備)の会長をお引き受けする事となった。この部会では、津門川の治水、景観、環境の整備を目指して、人と自然が出会い物語が生まれる街づくりをテーマとし、具体的には、

- ・治水 守る川守られる川 津門川
- ・修景 高齢者と子どもたちが立ち止まって憩う津門川
- ・環境 ゴミのない豊かな自然の環境づくり

の3本柱を目標としている。

取りあえず、川の西側は遊歩道として植栽を考え、また、東側にある三角公園は西側の道路を閉鎖して西へ広げベンチを置き、河床に根固めを作成し階段を作って川へ降りられるようにする、など。

早ければ平成20年2月頃、公同幼稚園の前の道路から兵庫栄養専門学校前までの道路がスクールゾーンに指定される予定である。

ようやく、鮎や小鳥やトンボが集い自然が戻りつつある津門川が、美しい公園「津門川公園」となることを願っている。

(北昭和町 高塚 宰)

2007年12月 あんなこと こんなこと...

- ・ 12月 1日(土) 午前6時30分～、早天祈祷会
- ・ 12月 3日(月) 午前10時30分～、女性の会
- ・ 12月 7日(木) 午後1時～、故林とき子告別式
- ・ 12月 8日(土) 午後1時～、南里良彦・菅澤未玲奈結婚式
- ・ 12月 9日(日) 午後1時～、教会学校教師会
- ・ 12月 11日(火) 午前10時～、ゆっくりと聖書を読んでみませんか
- ・ 12月 18日(火) 午後5時30分～、合同子どもクリスマス会
- ・ 12月 23日(日) 午前10時45分～、クリスマス記念礼拝
- ・ 12月 24日(月) 午後5時30分～、燭火礼拝・キャンドルライトサービス

にしきた商店街...

- ・ 12月 1日(土) コ・ルミナリエ点灯式
- ・ 12月 2日(日) 川掃除
- ・ 12月 6日(木) NISHIKITA ドイツのクリスマス
 - ・ ドイツのお菓子を作るシュトレン作り
 - ・ ドイツの音楽を聴く、話を聞く、ローソクを作る
- ・ 12月 12日(水) 商店街役員会
- ・ 12月 14日(木) グリューワイン講習会 場所：西宮公会堂集会室
- ・ 12月 14日(木)～24日(月) クリスマスおもちゃの展示
場所：芸文センター
- ・ 12月 18日(火) 街舞台実行委員会
- ・ 12月 19日(水) 南昭和町自治会クリスマス会・畑儀文コンサート
- ・ 12月 22日(土) 西北ドイツのクリスマス、
もちつき、高松公園キャンドルコンサート
- ・ 12月 24日(月) 商店街、南昭和町もちつき
- ・ 12月 31日(月) nao-shin コンサート 場所：芸文センター小ホール

アートガラーヂ

- ・ 毎週木曜日 14時～17時、土曜日 15時～17時 開室日
- ・ 12月 4、18日(火) 丹波野菜市
- ・ 12月 2、16日(日) にしきたドイツのクリスマス組み木教室
- ・ 12月 9日(日) 西宮市小学校美術教師対象・組み木教室
- ・ 12月 13日(木)～15日(土) クリスマスグッズ展
- ・ 12月 18日(火) アートガラーヂ運営委員会

関西神学塾

- ・ 12月 7日(日) 午後7時～9時 講師 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(28)
- ・ 12月 14日(金) 午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(44)
- ・ 12月 21日(金) 午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(4)
- ・ 1月 11日(金) 午後7時～9時 講師 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(29)
- ・ 1月 18日(金) 午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(5)
- ・ 1月 25日(金) 午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(45)

教会学校から

《11月の活動予定》

11月3日(土)

幼稚園運動会

11月4日(日)

作って遊ぶ

くるくるこまを作る

11月10日(土)

共同まつり

11月11日(日)

ゲーム遊び

射的大会

11月18日(日)

ちょっといいこと

高松公園でドッチビー大会

11月25日(日)

作って遊ぶ

クリスマスビーズリースを作る

《12月の活動予定》

12月2日(日)

作って食べる

のびる焼き風を食べる

12月9日(日)

ちょっといいこと

クリーン大作戦に参加する

12月16日(日)

ちょっといいこと

幼稚園の先生に遊んでもらう

12月18日(火)

合同子どもクリスマス会

12月23日(日)

クリスマス祝会

12月24日(月)

キャンドルライトサービス

みんなで歌うクリスマス

まいのなんでも案内

寒いですねー。末端冷え性の私には辛い限りですが、何とか生き延びてます。先日は着物で一日京都観光をしまして、全く無計画に出発したため、気付いたら草履で伏見稻荷を登山していました。公同幼稚園の血ですかね。でも着物で歩き回るのは非常に楽しかったので、是非着付けを覚えて日常的に和装を取り入れていきたいと思います。春と秋限定ですが、目指せ着物通学。

さて、そんな日常ですが、今日は久しぶりに文学ばい紹介をしてみようかと思えます。真っ向勝負です(何に)。というのもですね、私数年前から某 SNS (ソーシャル・ネットワーキング サービス) を利用しているわけですが、そちらで「村上春樹が割と好き」と書いていたところ、友達より「ならばオススメを教えてくれ」と言われまして。基本的に好みなんて主観だと思っているので、自分の好きなものが他人に受け入れられるとは限らないので紹介というのは気が引けるのですが(こんな連載しちゃってますが)、まあそう個人的に聞かれてしまったからには真摯にお答えしないとなあ、と思って、いっちょマジメに村上春樹について考えてみたわけです。もともと彼については何かしら書こうとは思っていたので良い機会でもありましたし。

12 と、いうわけで現代日本を代表する小説家(と言っていいと思う) 村上春樹。

私は全作読んでるし、何冊か持ってるし、たまーに無性に読みたくなるし、新刊出るとチェックもしちゃうし、客観的に見れば十分「好き」の範囲なんだけど、何故か、完全には心を許せないなー、と思ってる感じです、実は。いや、好きなんだけど無条件に好きって言っちゃったら負けな気がして。難しい距離感です。乙女心は複雑なのです(え?)。

という前提で紹介に入ります。

高橋舞的に言うと、村上春樹作品は

- 1 . 「僕と鼠」シリーズ(『風の歌を聴け』 『1973年のピンボール』 『羊をめぐる冒険』 『ダンス・ダンス・ダンス』)
- 2 . 中(長?) 編 『ノルウェイの森』 『国境の南、太陽の西』 『スプートニクの恋人』
- 3 . 大作 『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』 『ねじまき鳥クロニクル』
- 4 . 短編集がいくつか(『パン屋再襲撃』 『カンガルー日和』 など)

ここまでが、初期・中期。あと、近作として

- 5 . 『アフターダーク』 『海辺のカフカ』 『東京奇譚集』

て感じに分かれます。あとはエッセーと企画もの。真面目なルポからおふざけまで。こっちについても語れるけど今回は小説に限ります。

1 の内、 『ダンス・ダンス・ダンス』 は、時間を置いて書かれてるから若干毛色が

違うけど、それ以外は「初期三部作」で呼ばれてて、当時のハルキ色が出てます。わたくしは『ダンス・ダンス・ダンス』が好きですが・・・。

2については、結構評価は人それぞれだと思います。『ノルウェイの森』は、彼を一躍有名にした作品。私は最初は受け付けられなかったけど(読んだのが中学生でしたし)、最近読み返したらやっぱり名作だなあ、と感じました。というか、当時の日本の文学界を考えると、革命的な作品だったのだろうか、と。

多分一番一般に人気なのは3の『世界の終わり』とハードボイルド・ワンダーランド』。あたしも、最初に読んだときはコレが一番きれいにまとまってて好きでした。でも、研究室の先輩の言葉を借りるならば、「小綺麗すぎ」らしく・・・。まあ、私も彼の真骨頂は『ねじまき鳥クロニクル』だと思います。『ねじまき鳥クロニクル』は三部に分かれてて、三部さえなかったら綺麗なのにぶち壊したって声もあるぐらい、三部はグロいです。観念的になってきますし。私はグロいの嫌いなので、その辺が素直に好きと言えない一因なのかなあとも思いますけど、でも不意に読みたくなる周期がくるので、何回も読み返しちゃってます。

5については、一応読んでるけど、うーん、て感じです。彼は、あの独特の文体を作り出して、日本の文学界に多大な影響を与えたけど(私は、彼とよしもとばななに芥川賞を与えなかったせいで日本の文壇は権威を失ったと信じてま

す)『ねじまき鳥』のグロさが『海辺のカフカ』でエスカレートしてしまって賛否両論で(勿論ベストセラーではあるんだけど)行き詰ってしまって、エッセイや企画を多くするようになって、でもやっぱり小説を新しい手法でってことで『アフターダーク』は新しい試みで書いてみたんだけど、でもやっぱり今ひとつで、『東京奇譚集』(短編集だけど)に落ちたのかなあという印象を持っています。それでもタレント業に走らず、書き続けてるのはやっぱりすごいと思うのだけれど。

来月は短編や、企画モノについても少し紹介したいと思います。それでは、寒い日が続きますが身体には気をつけてお過ごしください

つとがわ 編集後記

12月には、あちこち出張でもちつきをします。このもちつきにはこだわりがあって、火力には“マキストーブ”を使います。1995年の兵庫県南部大地震の時、北海道滝川から取り寄せることになったマキストーブです。現在は、その4代目くらいのを使っています。“マキ”にもこだわりがあって、地震で壊れた家の廃材を使ってきました。地震から12年経ってさすがにその時の廃材はなくなって、いろいろ廃材を使っています。12月26日～28日は、輪島と柏崎にもちつきで出張します。道具から人の手配まですべて運んでいきます。が、マキストーブに使うマキは、それぞれの地震で壊れた廃材を現地で準備してもらっています。そんな訳で、今年のもちつきは12月22日の芸文センター前、高松公園、12月24日の南昭和町自治会、12月29日午前中は神戸市兵庫区本町公園、29日午後は中央区東遊園地です。

(K)

さをり展に行ってきました。去年もボタンのヘアゴムを購入！今年も買ってしまいました。今年はマフラーもです。どれ一つとして同じ模様はなくて、すてきなものばかりで見とれてしまいました。そして、この時、スカイピルのツリーも見ることができました！街はすっかりクリスマス！イルミネーションにクリスマスソング 街を歩くだけでうきうき しちゃいます！みなさまにとってすてきなクリスマスになりますように・・・

(N)

先日、久しぶりに短大の時の友達10人程でプチ同窓会をしました。みんな同じ職種なので話すことは仕事のことばかり。学生時代の友達と仕事の話をするような年になったんだなぁとしみじみしてしまいました。でも仕事の話をしていても、気分は学生時代に戻ります 卒業しても、こうして会える友達がいることを嬉しく思いました

(Y)

の公園のしぶ柿を少しいただいて、皮をむいて園舎につるしておきました。おいしいほし柿を食べるには毎日揉んであげないと固くなってしまいうからダメなんだよって言う毎日「モミモミしたか？」とチェックが入り～、毎日何人かの子ども達にも手伝ってもらってモミモミしました。心を込めてモミモミモミ・・・愛も込めてモミモミモミ・・・モミ、モミ、モミ・・・モミ・・・そして先日そろそろ食べ頃かも と味見してみると・・・うん！！甘い！！しかもいい固さ～ みんなでモミモミしたほし柿はなんだか愛しくてもったいないから少しずつ味わっています。

(I)

12月8日、娘の結婚式が行なわれた。ささやかな割には「注文の多い」式を。階段、礼拝堂、花でいっぱい人でいっぱいのひとときを過ごさせてもらった。音楽は サウンドオブミュージックより入場は「マリア」退場は「すべての山に登れ」。篠山教会の市川好恵さん大奮闘。相手はもしかしたらプロになっていたかもしれないギタリスト。で、式の中でのオルガンとのコラボを依頼。父親の歌も加わって アメージンググレイス。式後は趣味で続けているというバンド(6人)での演奏。そしてガーデンパーティ。全部教会、園にかかわる方々がセッティングして下さった。お金はかからないけれど、人の労力と愛で成り立った式は、それまでの日その日だった。形ではなくそんな「心」。それが何より娘へ届けたいものでした。

(J)